

# 草津市矢倉学区 地区防災計画

地震編・風水害編

平成30年(2018年)3月版



矢倉学区未来のまち協議会

# 目次

1. 矢倉学区の防災目標	1
2. 地区防災計画の対象	2
3. 矢倉学区で想定される被害	3
4. 矢倉学区のまち点検	6
5. 矢倉学区における災害対応体制	9
6. 事業所との連携	12
7. 町内会ごとの体制	17
8. 付録	42
9. おわりに	44

# 矢倉学区の防災目標

## 「災害に強いまちづくり」

矢倉学区の防災目標は「災害に強いまちづくり」です。矢倉学区での強みである地域のつながりや絆が、災害時にも発揮できれば、大災害にも打ち勝つことができるでしょう。

矢倉学区内の12町内会の個々のまちづくり活動や防災活動はとても熱心です。今後は町内会ごとの力をあわせて学区全体で対応することが求められます。

「矢倉学区地区防災計画」では、各町内会で取り組まれている防災活動や避難体制を共有することと、学区住民だけでなく事業所との連携方針を打ち出し、学区全体の力として効果的に発揮するための指針を策定しました。

「災害に強いまちづくり」という目標を達成するために、個々の力をぜひ発揮していきましょう。



# 地区防災計画の対象

矢倉学区地区防災計画で想定するハザードは「地震」と「風水害」です。「地震」では琵琶湖西岸断層帯等の直下型地震を想定して、起こり得る被害の想定と地震発生直後から広域避難所までの住民の対応計画について示しています。「風水害」では河川や側溝・ため池の氾濫を想定した内水氾濫を対象に、起こり得る被害の想定と、氾濫発生を見据えた避難の対応計画について示しています。

## 地区防災計画の対象範囲

対象となるハザードとその基準	地震	震度5弱以上
	風水害	「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」のいずれかの発令
計画の局面	地震	地震発生直後から広域避難所への到達まで
	風水害	「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」いずれかの発令時から広域避難所への到達まで
計画の目的	<ul style="list-style-type: none"><li>① 地震発生時または風水害の被害想定時に家庭／町内／学区における時系列での対応を周知する。</li><li>② 災害時には地域住民と事業所で助け合える関係をつくる。</li><li>③ 町内会ごとの起こり得る被害と避難の体制を把握する。</li></ul>	

# 矢倉学区で想定される被害

## 1. 地震

草津市では、近年特に顕著な地震はないものの、過去の地震活動履歴から鑑みれば、今後大きな地震災害が発生する可能性があります(図1参照)。草津市周辺には、幾つもの活断層が存在しており、どの活断層が活動しても地震災害をもたらす可能性があります。

草津市にとって特に考慮すべき地震は、「琵琶湖西岸断層帯による地震」と、「南海トラフ巨大地震」です。

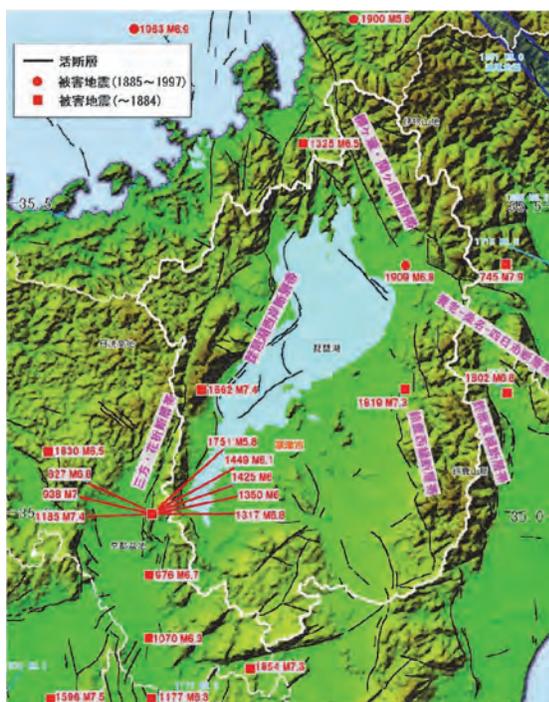


図1 滋賀県の地震活動履歴  
(草津市防災アセスメント調査より抜粋)

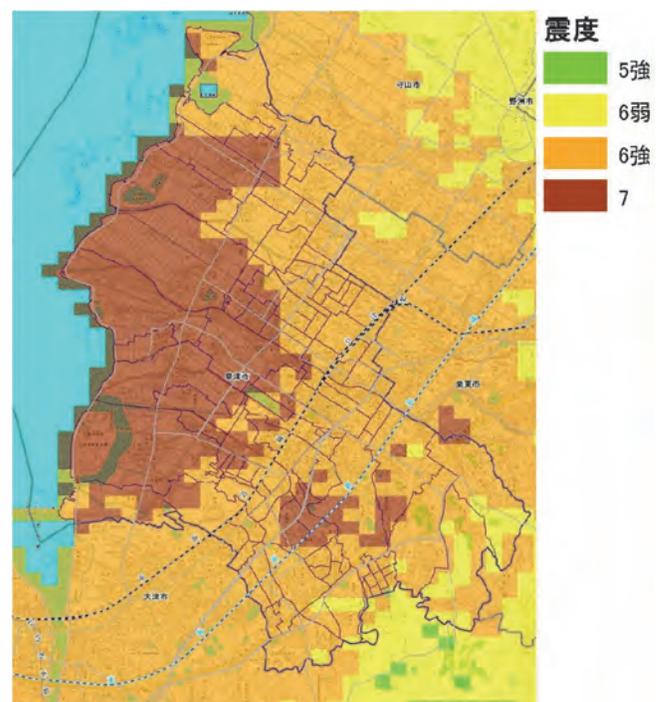


図2 琵琶湖西岸断層帯における最大震度  
(草津市防災アセスメント調査より抜粋)

## 琵琶湖西岸断層帯の被害予測

琵琶湖西岸断層帯による地震が発生すると、矢倉学区においても**最大震度7(図2参照)**をもたらすと予測され、滋賀県内で想定される地震の中で草津市に最も大きな被害をもたらす可能性があります。

「草津市防災アセスメント調査」(平成27年(2015年)1月時点)によると、揺れ、液状化、火災などによって、矢倉学区では**死者約18人、重傷者約33人、負傷者約191人、避難者約1,495人に及ぶ(付録1参照)**と見込まれています。また、**帰宅困難者も市内で多く発生することも想定されています。建物被害では、全壊棟数約344棟、半壊約779棟が発生(付録2参照)し、約1,123棟の建物に被害が及ぶと見込まれています。**

## 南海トラフ巨大地震の被害予測

南海トラフ巨大地震が発生すると、**最大震度6強をもたらすとともに、全国に被害をもたらす極めて社会的影響の大きい地震のため、他地域からの受援不可能であり、県内防災力のみで対応すべき状況に陥る可能性があります。**

# 想定される被害

## 2. 風水害

草津市矢倉学区において深い浸水が発生する地域は限定的です。しかしながら、集中豪雨や長雨等が発生した場合、琵琶湖や河川の水位が上昇することにより、側溝やマンホールから氾濫する危険性が極めて高いです。また、草津市矢倉学区には比較的多くのため池が存在しており、集中豪雨等により決壊や氾濫する危険性があります。豪雨だけでなく、台風等による暴風への被害の対応についても進める必要があります。

地球温暖化等の影響で、草津市における年間降水量や1時間雨量は増加傾向にあります。これまでに経験のないような豪雨災害が全国各地で毎年発生しています。「想定内」とはわれないよう、風水害に対応するための体制づくりが求められます。



# 矢倉学区の

平成29年(2017年)6月10日に矢倉学区にお住まいの方々とまち点検と意見交換を行い、災害時の危険箇所や想定される被害や防災資源を発掘していきました。次のページでは、矢倉学区において災害時の危険箇所や被害想定を示しています。

まち点検で発掘できた防災資源は、災害時にスムーズに活用できるようにあらかじめ準備するとともに、災害時の危険箇所や被害想定は、できるだけ危険箇所や被害を減らすような取り組みを学区全体で進めていく必要があります。

## 矢倉学区まち点検・意見交換の様子



## 災害時の危険箇所・被害想定

### 【地震】

- 火災の延焼危険性が高い木造密集市街地が見られる
- 老朽した木造家屋が見られる
- 倒壊危険性が高いブロック塀や、ため池の擁壁が見られる
- 緊急車両の進入が困難で、建物の倒壊により避難ができないような狭隘道路が見られる
- 段差がある箇所ではスムーズな避難の妨げになる

### 【風水害】

- アンダーパスでは水が溜まって避難ができない
- 河川の越水の危険性がある
- 排水溝、池が氾濫する危険性がある
- 水路のゴミがたまって、氾濫する危険性がある
- 低地部では内水氾濫の危険性が高い
- 水害時に使用できない避難場所がある

# MEMO

# 矢倉学区における災害対応体制

災害発生時には学区住民と行政とが連携して対応にあたることが求められます。

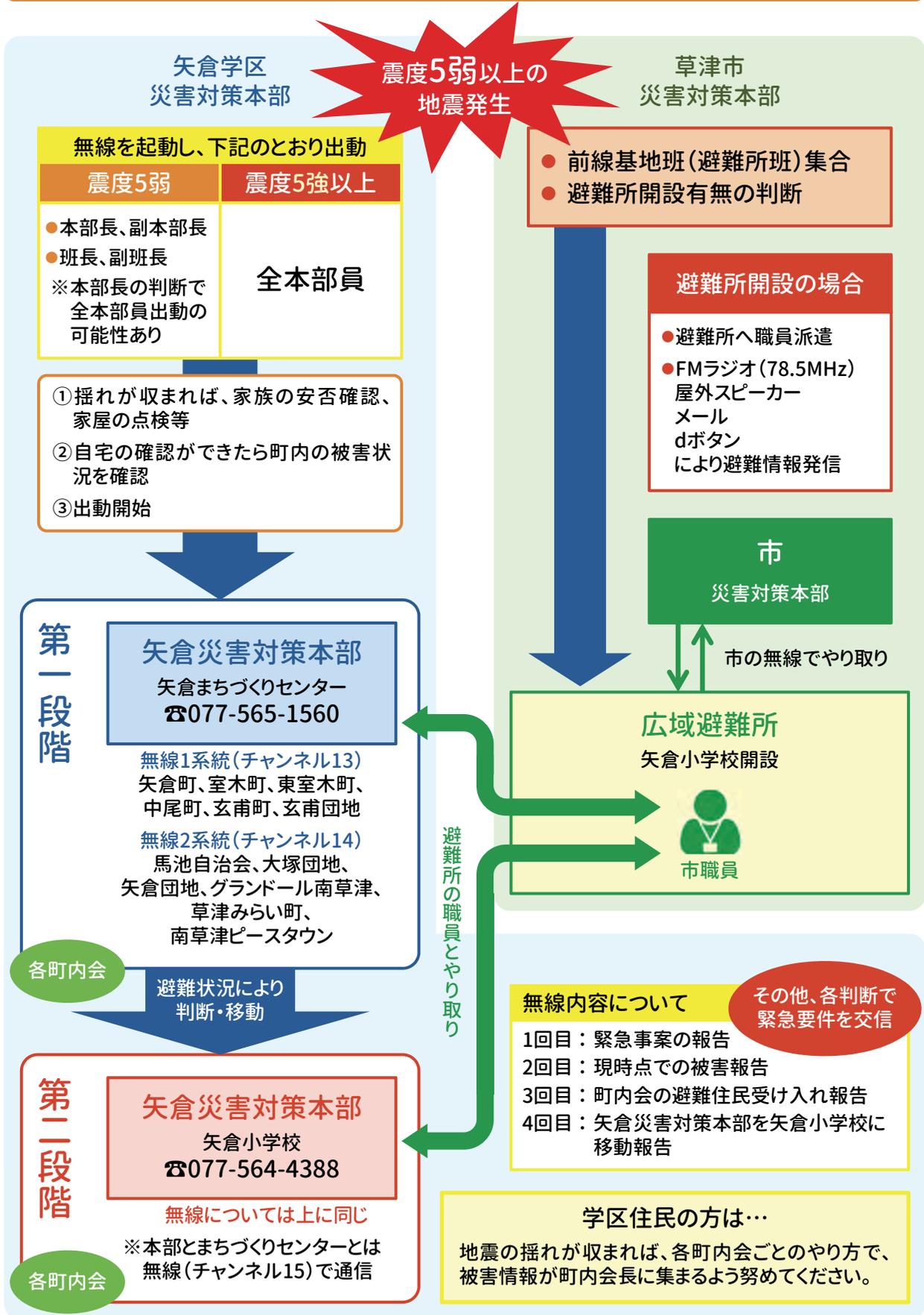
次のページからは、地震発生時や水害発生時での矢倉学区災害対策本部と草津市災害対策本部との災害発生時から避難所開設までの流れや役割と、矢倉学区で常備されている無線の内容について示しています。

ここで示している体制や無線の内容を基に防災訓練などで検証しながら、更新していくことで、災害時に実効力のある体制づくりを図っていきます。



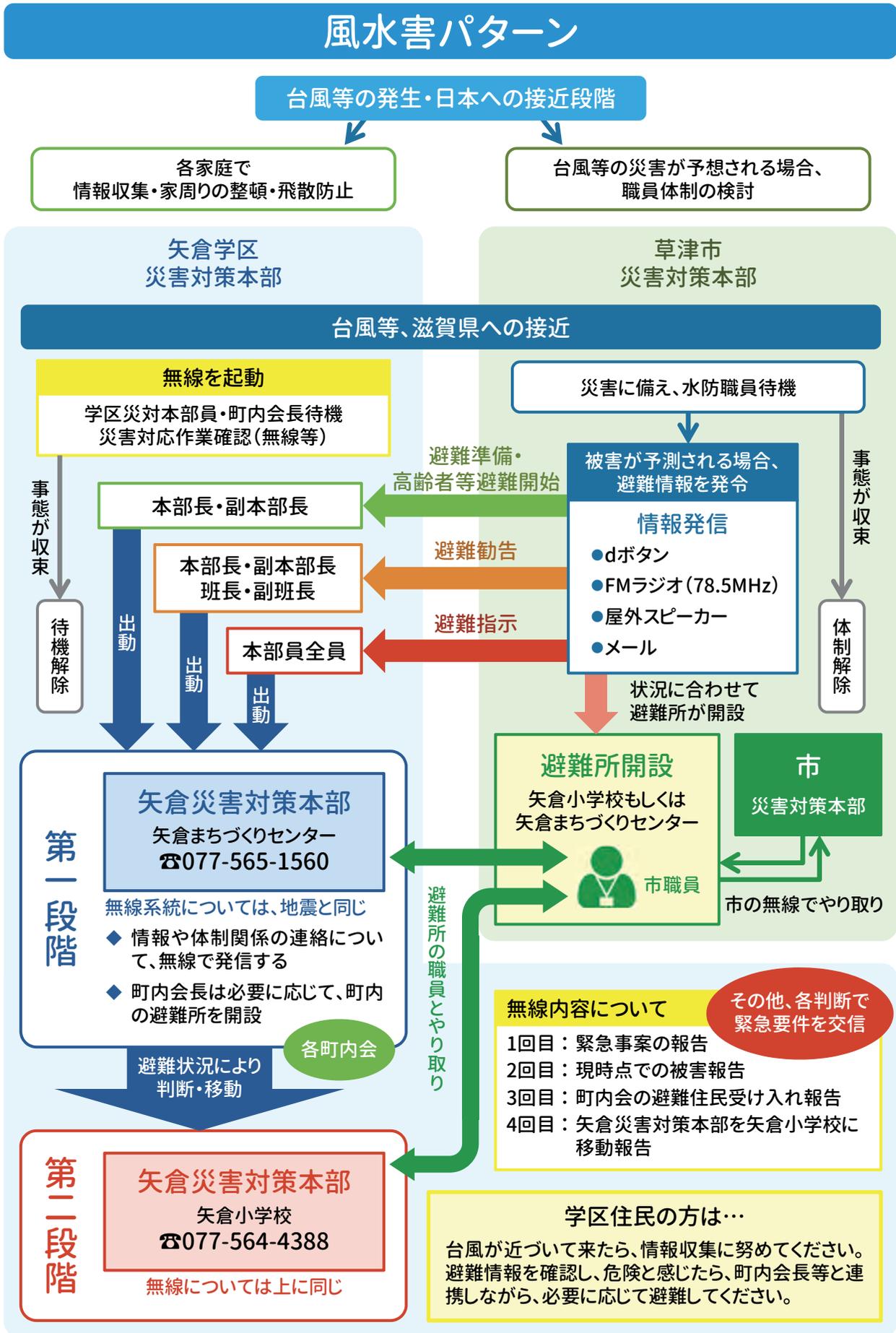
# 矢倉学区における

## 地震パターン



# 災害対応体制

## 風水害パターン



矢倉学区には数多くの事業所が立地しています。災害時には住民同士だけでなく事業所と連携し、「住民と事業所とで助け合う」ことが不可欠です。

矢倉学区に立地している以下の代表的な事業所を訪問し、学区として災害時に地域住民と事業所の双方が協力できることについて意見交換を行いました。

(1) ニチコン草津株式会社

(2) ネットヨタびわこ株式会社草津店

(3) 近江度量衡株式会社

もちろんここに挙げている事業所以外にも、既に町内会と連携している事業所がたくさんあります。

次のページには、事業所との連携方針を示しています。



# との連携

## (1) WIN-WINの関係を目指す

事業所と地域住民の双方が「WIN-WIN」の関係になれるよう、災害時に協力できる可能性を示したものです。地区防災計画に記載されているからといって、災害時に必ず遂行すべきものではありません。

地区防災計画を通じて事業所と地域住民との連携を進めるきっかけとし、防災訓練の参加や防災に関する会議への参加など両者で連携する取り組みを増やしていきましょう。

## (2) 連携の輪を広げる

矢倉学区には多くの事業所が立地しており、より多くの事業所と連携することで災害時に対応できる力を発揮することができます。もちろん既に多くの町内会と事業所で災害時の連携が進んでいますが、災害時に連携しあえる事業所の数をこれからも増やしていきましょう。

## 1. ニチコン草津株式会社

### 【住所】

〒525-0053 滋賀県草津市矢倉二丁目3番1号

### 【事業内容】

電気機械器具および応用関連装置、電源の開発・製造

(電力・産機・車載・機器用フィルムコンデンサ、直列リアクトル、電力品質改善装置、加速器用電源、産業機器用電源装置、産業用蓄電システム、その他特殊電源等)

### 【取り組んでいる防災対策】

- 従業員の安否確認システムの構築
- 緊急災害訓練の実施  
(草津シェイクアウト活動にも参加)
- 水害に対する土嚢等の準備



(ニチコン草津株式会社の様子)

## 地域のために協力できること

### 1. 工場貯水タンクの活用

- 工場内に設置の貯水タンクからの一部流用

### 2. 分散型電源(大型蓄電システム)を活用した夜間給電

- 炊飯・調理や加熱、携帯の充電等

### 3. 駐車スペース、緑地の解放

- 駐車や救援物資の保管等に活用

### 4. 工場保有機器・資産の活用

- 軽トラック、フォークリフト、電動工具、各種事務用機器 他

### 5. 食堂・会議室エリアの解放

- 約350㎡の食堂の一時解放、その他工場スペースの利用

## 2. ネットトヨタびわこ株式会社草津店

### 【住所】

草津店：〒525-0053 滋賀県草津市矢倉二丁目8番26号

本 社：〒520-3041 滋賀県栗東市出庭513番地1

### 【事業内容】

- トヨタの新車販売、カーリース
- 中古車販売
- 自動車の修理、点検
- 自動車保険代理業



(ネットトヨタびわこ株式会社草津店の様子)

### 地域のために協力できること

#### 1. 災害時避難場所として提供

- ショールームおよび2階会議室に20～30所帯程度可能
- 工場は物資保管場所として提供可

#### 2. トイレの提供

- ショールームはバリアフリー設計で身障者用トイレ有り

#### 3. 国道側に30トンの貯水槽を設置

- 火災時等に提供可

#### 4. ウェルキャブ車両(介護車両)の提供

#### 5. 積載車の提供(ウインチ付)

# 事業所との連携

## 3. 近江度量衡株式会社

---

### 【住所】

〒525-0054 草津市東矢倉三丁目11番70号

### 【事業内容】

大型はかりと計量システム

(計量機器を扱う農業用プラント・工業用プラントの設備とシステム)

### 地域のために協力できること

1. 災害時避難場所、一時保管場所等の利用
2. トラック・フォークリフト等の車両による運搬
3. 工場内にある工具・備品の貸し出し (場合によっては提供)

# 町内会ごとの体制

矢倉学区では多様な町内があり、防災の取り組みや避難の体制は、町内会ごとにそれぞれ異なります。矢倉学区の全ての町内会にアンケート調査を行い、①町内会の特徴、②町内会での防災の取り組み、③災害発生時の不安、④避難の体制と避難場所、⑤町内会のハザードマップを示しました。

まずは町内会ごとの防災の取り組みや避難の体制を共有し、できるところから課題を解決することで、災害発生時に学区全体でより効果的な対応ができるように目指しましょう。

## 町内会アンケートからみる 矢倉学区の主な特徴と災害時の課題

設問		主な意見
1	町内会の特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>• 高齢化が進展している</li><li>• 新住民と旧住民とが混在している</li><li>• 高齢者を対象とした地域サロンの運営やイベントを実施している</li><li>• 地域活動やコミュニティが活発である</li></ul>
2	町内会での防災の取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>• 消火栓BOXや消火ホースを点検している</li><li>• 防災マップや防災ニュースを配布している</li><li>• 防災訓練を実施している</li></ul>
3	災害発生時の不安	<ul style="list-style-type: none"><li>• 災害時要援護者が多い</li><li>• 災害時に適さない場所に一次集合場所が指定されている</li><li>• 水害時に避難路が浸水する危険性がある</li></ul>

## No.01 矢倉町

### 町内会の特徴

矢倉町は北に草津川、南は北川の間に位置し、外角周囲が約3kmに及びます。町内を三分割するかのようJR線や東海道(旧街道)、国道1号線が南北に通っており広範囲です。町内世帯数は1,700世帯余り、住居形態では一般住宅(戸建て)アパート・マンション、ワンルームマンションが建ち、古の時代から代々矢倉に居住されてる方々から近年宅地造成でお住まいの世帯まで様々です。大きな工場、事業所や商店もあり住民との融和が図られ、年間を通して町内催し事も盛ん。また神社、御旅所、お寺も多く伝統行事もあって、特に5月のお祭りのサンヤレ踊り、神輿渡御も賑やかで特徴的です。

矢倉町全体の高齢化指数(65歳世帯／全世帯)は25%弱であるが居住形態或いは地区別に計れば、全市平均を超える部分もみえます。尚、子ども数も増している現状もまた特徴の一つです。

### 町内会での防災の取り組み

町内ふれあいパトロールと称して5年前から当町全域でブロック毎にチームを編成。年間を通して、毎日、防犯・防災を目的とした当夜警を実施している。当年組長と次年度組長などを対象に消防の協力を得て防火訓練、心肺蘇生訓練などを毎年実施。矢倉自衛消防隊(女性含む全役員で組織)訓練は年2回実施。町内の消火器、消火栓器具の定期点検(消火器は全数、製造年より8年以内で交換、消火栓ホースの入替えは毎年7箇所21本交換)他、町内に設置5箇所防災倉庫の備品(ヘルメット、油圧ジャッキ、リヤカー、シート、チェンソー、照明類他)の定期点検を実施し、町内避難所には非常食を備蓄。町内の防災拠点・施設マップを全世帯に配布済み。今後、年2回実施の全町一斉清掃日に合わせた大規模訓練(一次集合・避難)を検討。

### 災害発生時の不安

当町の特徴のとおり全世帯に亘って防災への緻密な配慮までは難しい面もあり、できることから、また最低限必要なものから考える。例えば、耐震化されたマンションより築後相当年数の老朽家屋や同密集地区への対応警戒、また高齢者の方や要援護者(登録者数・64名 H29.9現在)に対して的確に実動できるかなど。(最低限のマニュアルやオペレーションツールの作成、そして「向こう3軒両隣り」の再認識も大切な課題と考えます)



## No.02 室木町

### 町内会の特徴

- いきいき百歳体操、週1回のペースにて近隣町内会の方々も参加されている。
- 町内通信を月2回発行している。町内の出来事、あらゆる情報を発信し、住民の方々知ってもらいたい。
- 室木町は大きく分けて、新興住宅と長く住まわれている住宅にて構成されている。

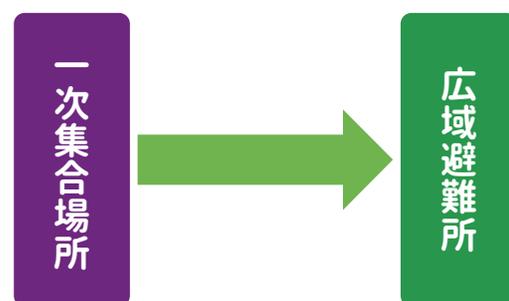
### 災害発生時の不安

- 避難場所として室木町には近くに近江度量衡会社を利用と定めているが災害の内容によって変わってくると思われる。水害が発生すれば地盤が低い避難箇所は適さないのでは？
- 住宅の位置から、高穂中学校への避難も考えた方が良いのでは？

### 町内会での防災の取り組み

- 月1回、4～5名にて、夜警を実施している。PM8～9頃、女性の方が多くなった時は必ず男性を入れパトロールとする。チェックシートの作成にて、記入、確認、チェック、対策を行っている。
- 消火栓BOX、ホース等の点検は各班の自主防災隊員がチェックシートを基に行い、月末に隊長がノートを回収、確認する。ただし、問題発生時はすみやかに隊長へ連絡と徹底している。

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

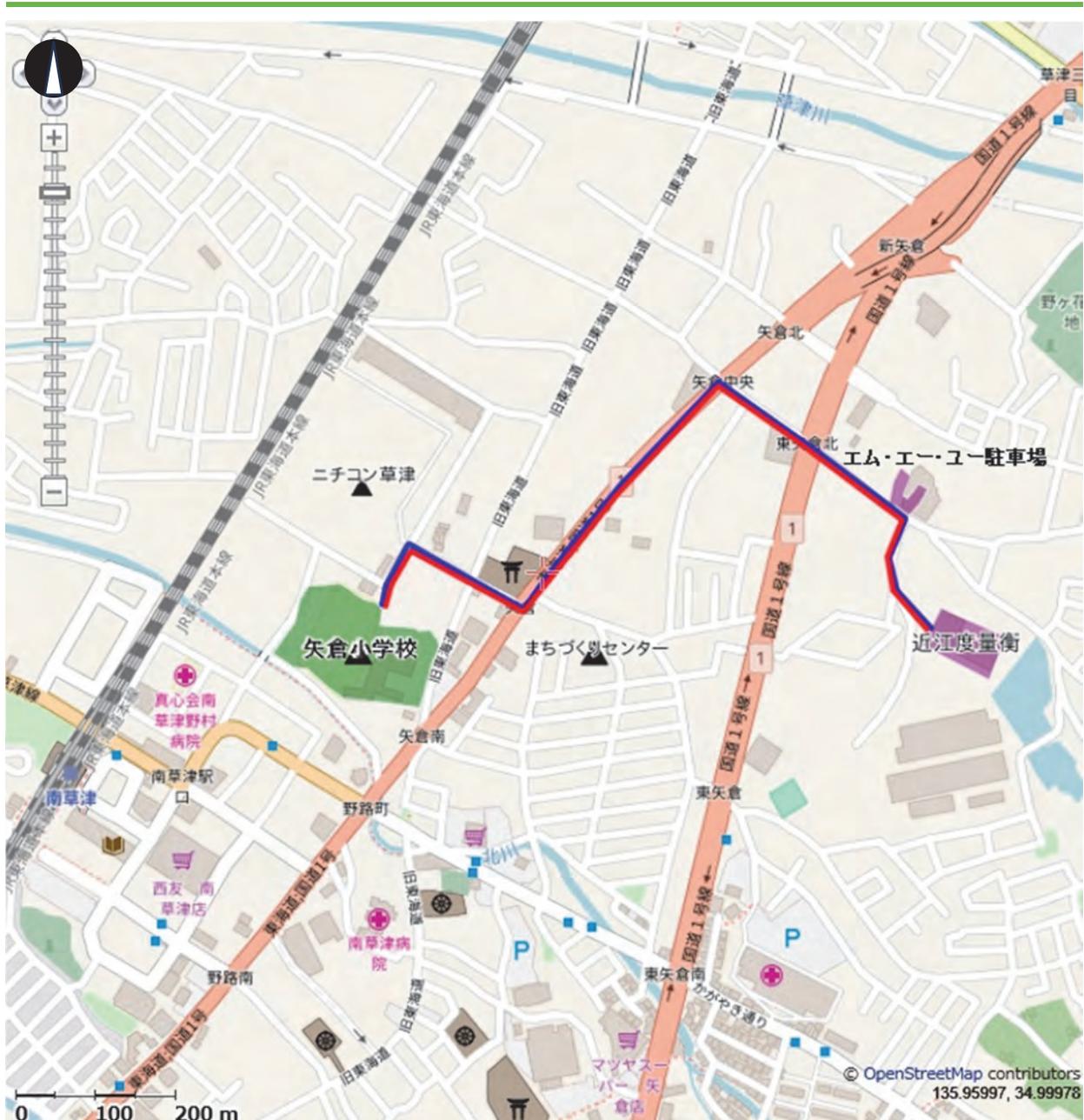
- 近江度量衡(株)駐車場
- エム・エー・ユー(株)駐車場

#### 【町内の避難所】

指定していない

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.03 東室木町

### 町内会の特徴

- 高齢化は進んでいるが、空地の新築家に若い人たちが入居し、子供も増えつつある。
- 高齢者を対象にした地域サロン「あそぼう会」があり、月2回の憩いの場となっている。
- ふれあい喫茶「憩」を立上げ、みんなで集える場所づくりを進めている。

### 災害発生時の不安

- 高齢化が進んでおり、要援護者への対応方法等の徹底が出来ていない。
- バイパスの隧道がニカ所あり、水害時に危険を感じる。

### 町内会での防災の取り組み

- 年2回(春、秋)、町内の「屋外消火器」「消火栓BOX」の点検を実施している。(自主防災部員により実施)
- 一次集合場所の周知として「防災マップ」を作成し、全戸配布している。
- 防災意識の啓蒙を図るため、年2～3回「防災ニュース」を作成し回覧している。
- 毎年1回、南消防署の協力を得て「家庭でできる緊急応急処置」「AEDの使い方体験」等の訓練を実施している。

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

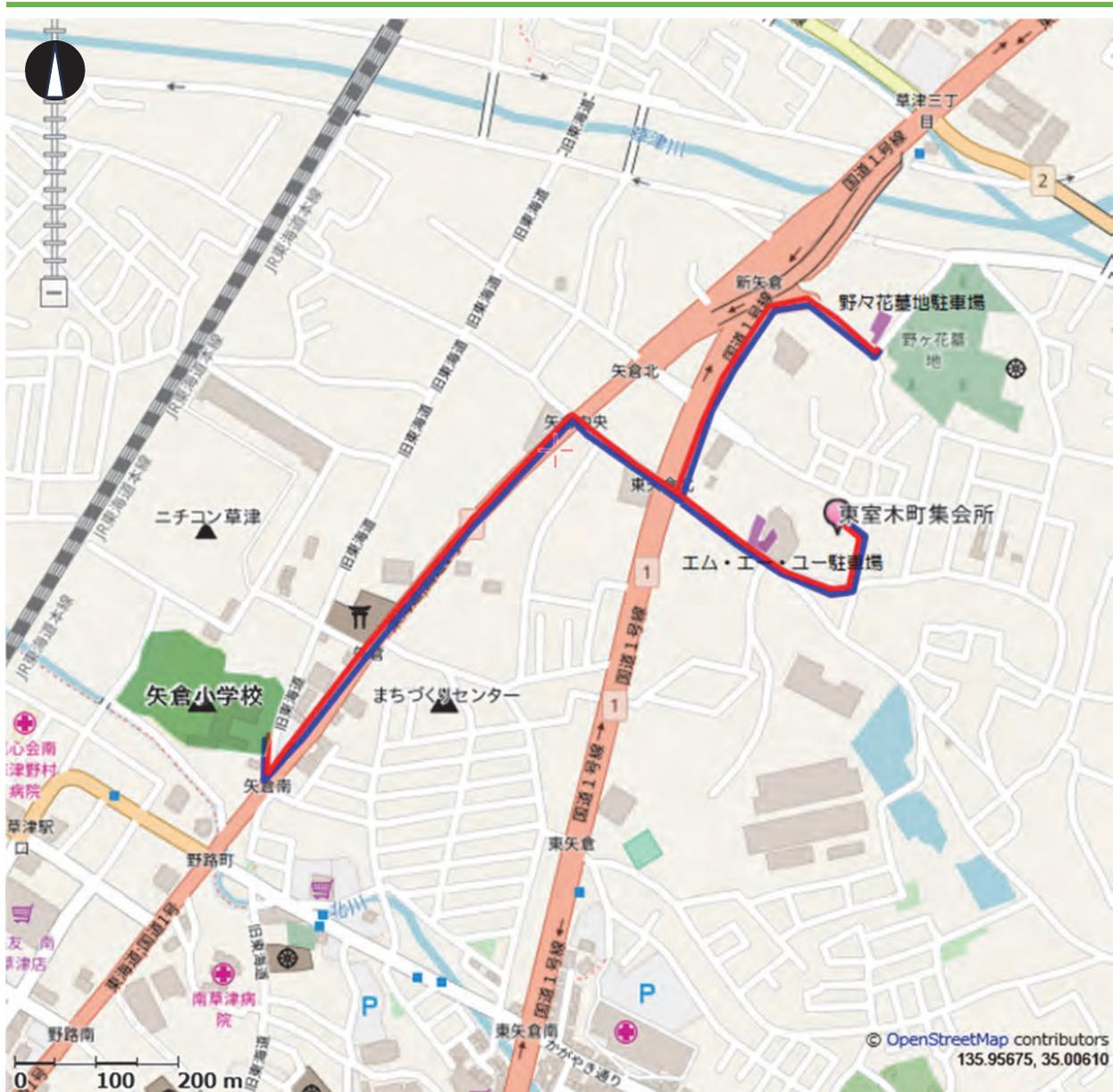
- 野々花墓地駐車場
- エム・エー・ユー(株)駐車場

#### 【町内の避難所】

- 東室木町集会所

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.04 中尾町

### 町内会の特徴

- 旧家の方は近所付き合いが盛ん
- 高齢者が多い

### 町内会での防災の取り組み

年1回

- 防災器具点検
- 防火防災訓練

月1回

- 町内パトロール

### 災害発生時の不安

- 高齢者が多い
- 道幅が狭く消防車が入れない

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

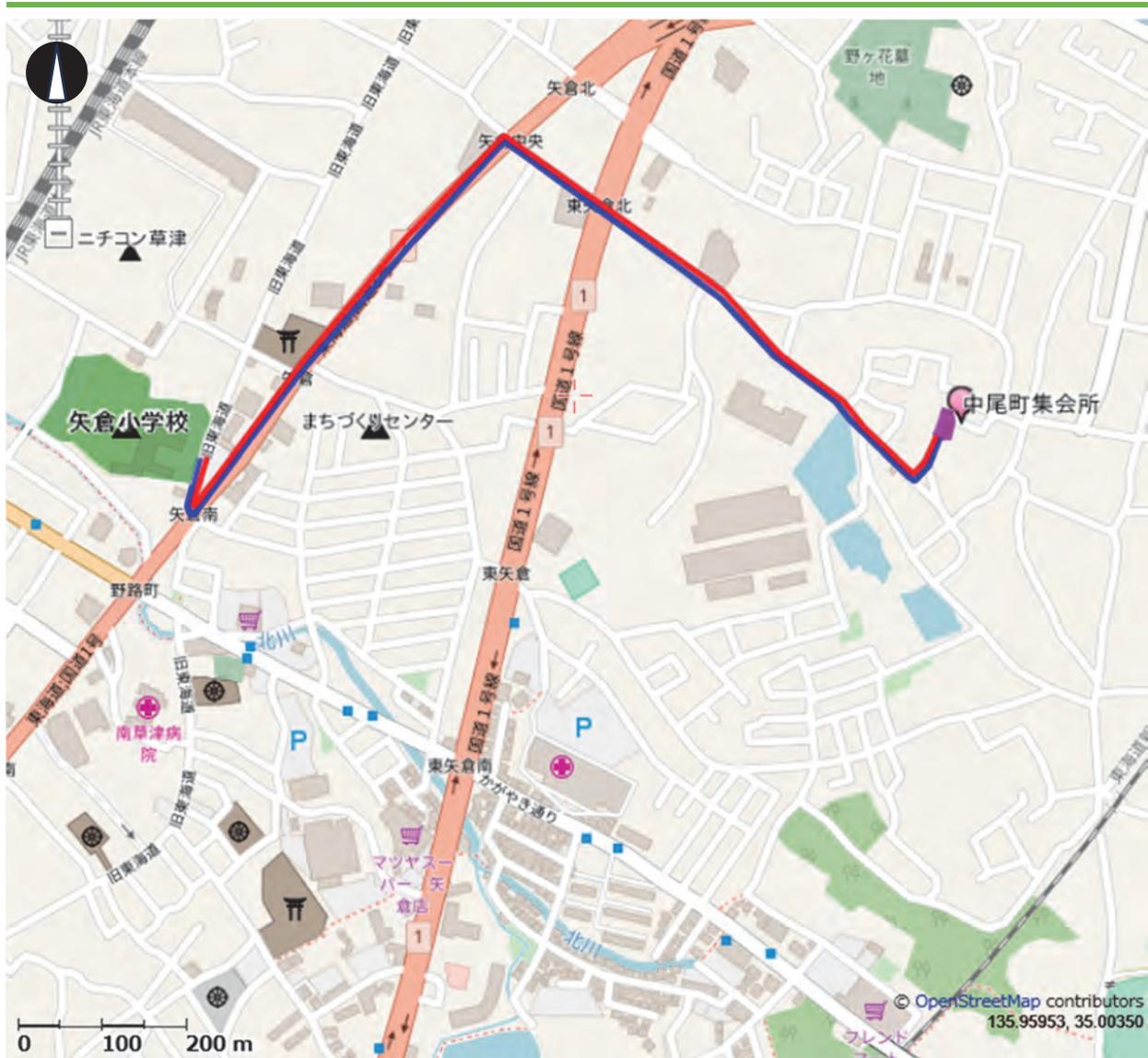
- 中尾町集会所前

#### 【町内の避難所】

- 中尾町集会所

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.05 玄甫町

### 町内会の特徴

- 高齢者(70歳以上)を中心に、百歳体操やサロン、けんぽなかま等を開催。また、折り紙、手芸、お茶会等へも積極的に参加しております。
- 当町内は昭和40年代から宅地開発が進み、戸数は300戸近くにせまり高齢世帯が多い中で若い世代も増えてきて、その活力に期待できる。

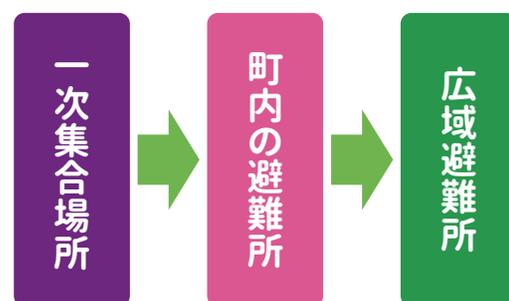
### 災害発生時の不安

- 一部を除き、道路幅が狭く住宅が密集している。(消防車が入れない)
- 大雨になると、道路より低い家屋が数件あり浸水の恐れがある
- 暴風雨などで、折角設置された防災スピーカーも、なにを言っているのか全く解らない。
- 高齢者が当町内にも多く、災害時要援護者が30数名おられるが、その時の協力、支援体制をしっかりとしておくことが必要(町内会／自主防災会)

### 町内会での防災の取り組み

- 防災倉庫の機器点検と保全(年3回)
- 消火栓箱の点検と保全(年3回)
- 草津市市民防災認定者・普通救命講習への積極参加(現在15名終了)
- 防災訓練、消火器取扱い、防災機器取扱etc.
- 阪神淡路防災センターなど研修積極参加

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

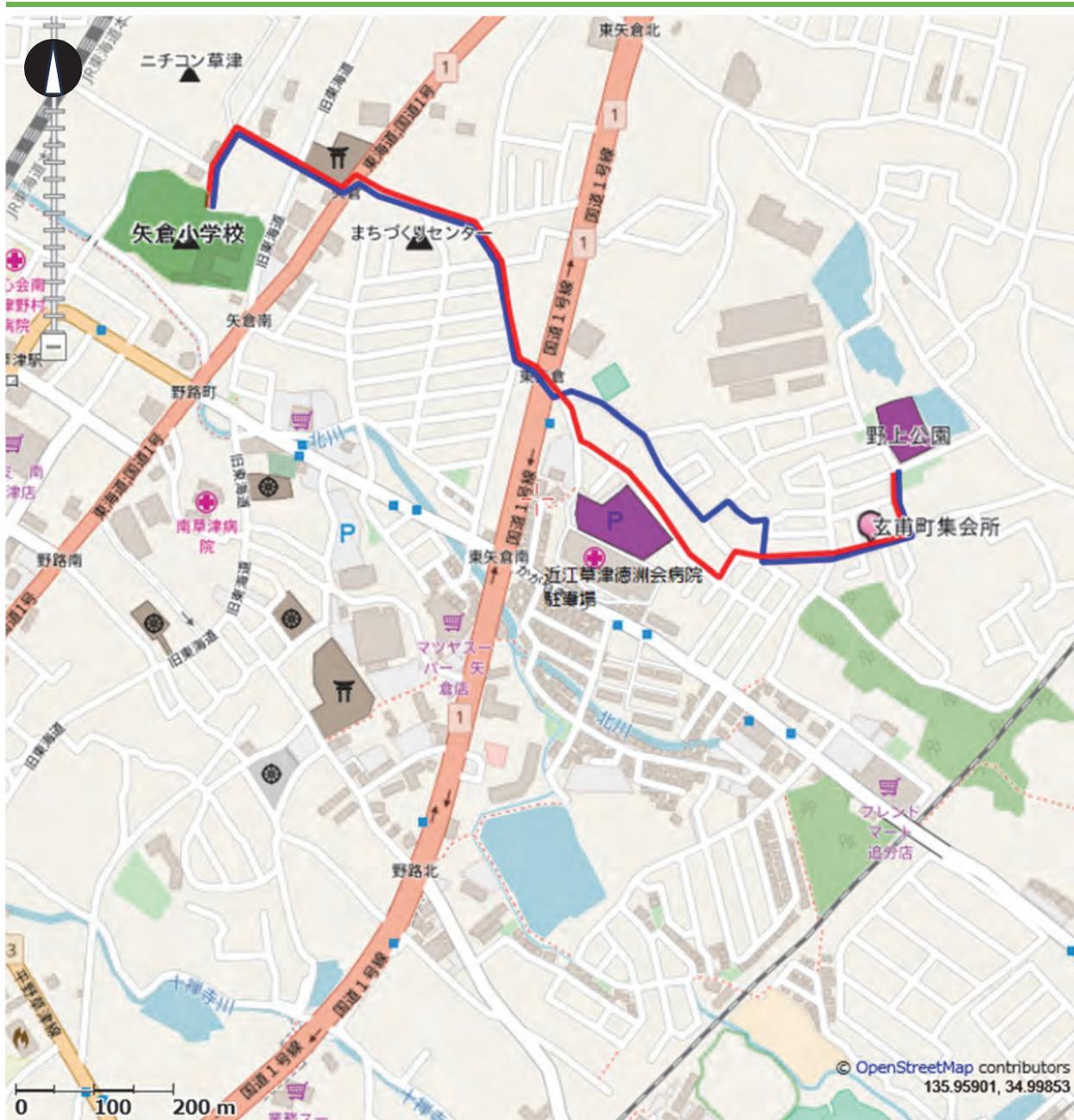
- 野上公園
- 近江草津徳洲会病院駐車場

#### 【町内の避難所】

- 玄甫町集会所

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.06 玄甫団地

### 町内会の特徴

- 高齢者が多い(町内住民51人中65歳以上が30名)

### 町内会での防災の取り組み

- 消火器、防犯ベル1年に1回点検している

### 災害発生時の不安

- 要援護者が多い(11人くらい)

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

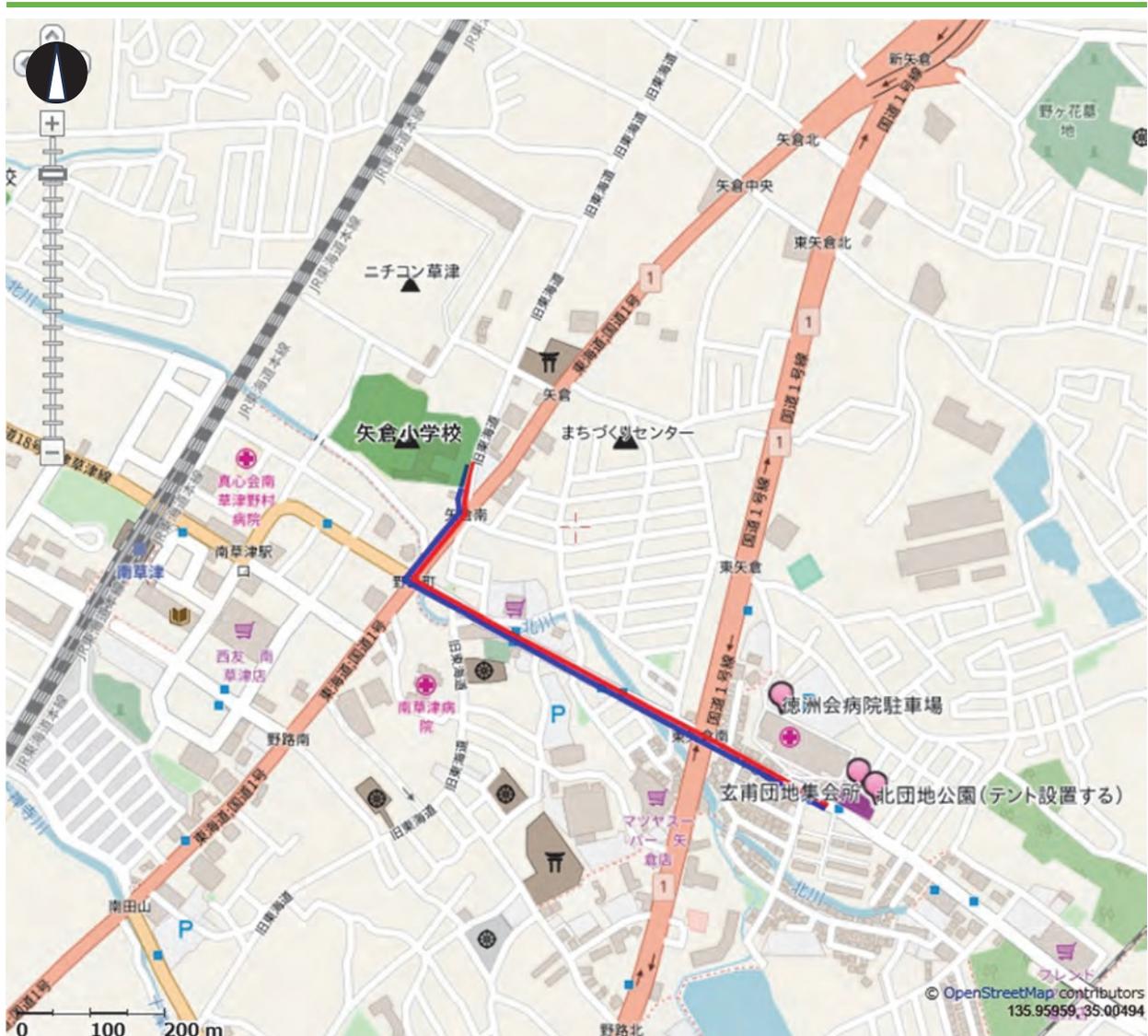
- 玄甫団地集会所
- 北団地公園(テント設置する)
- 近江草津徳洲会病院駐車場

#### 【町内の避難所】

- 玄甫団地集会所

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.07 馬池町

### 町内会の特徴

- 主要道路で分断されている（京滋バイパス・かがやき通り）
- 自治会に総合病院（近江草津徳洲会病院）がある
- 自治会総世帯数689世帯（加入世帯数 651世帯、未加入 38世帯、70歳以上の方が574人）
- 交流サロン2ヶ月に1回、毎回40～50人参加
- 百歳体操に年間延べ人数で565名参加  
昨年度、継続取り組みに市長表彰を受ける
- まち協美しいまちづくりに25名が登録し、再利用のプランターなどで花づくりをしている
- 「風林火山」「よさこい元気舞台」のボランティアグループ、演奏グループが幅広く活躍している
- 馬池町夏祭りには300世帯以上が参加

### 町内会での防災の取り組み

- 消防、消火設備（住宅地・公園内）を年1回総点検
- 自治会館の消防、消火設備の法定点検、自主点検年2回実施
- 防災倉庫内の動力機器を毎月1回実施（発電機・チェンソー）
- 防災倉庫の増設、防災用具（簡易トイレなど）の購入
- 自治会行事に防災関連プログラムの組み入れ（防災ウォーキング）
- 任意防災グループ指導による消火消防訓練の実施（馬池自主防災おれんじ）

### 災害発生時の不安

- 地震・風水害の馬池町内での具体的な被害想定ができていない
- 草津において最近目立った災害が起きていないため、油断が生じている
- 主要道路で分断されているため、避難場所を特定すると危険
- 災害弱者の把握はできているが、援護体制が不十分
- 備蓄飲食料が不十分（個別世帯での取り組みを強化する必要がある）
- 7年前に作成した馬池町総合避難訓練計画の取り組みが単発的に留まっている
- 防災組織の強化が必要

# の体制

## 避難の体制と避難場所

一次集合場所



広域避難所

【一次集合場所】

- 町内6箇所を指定

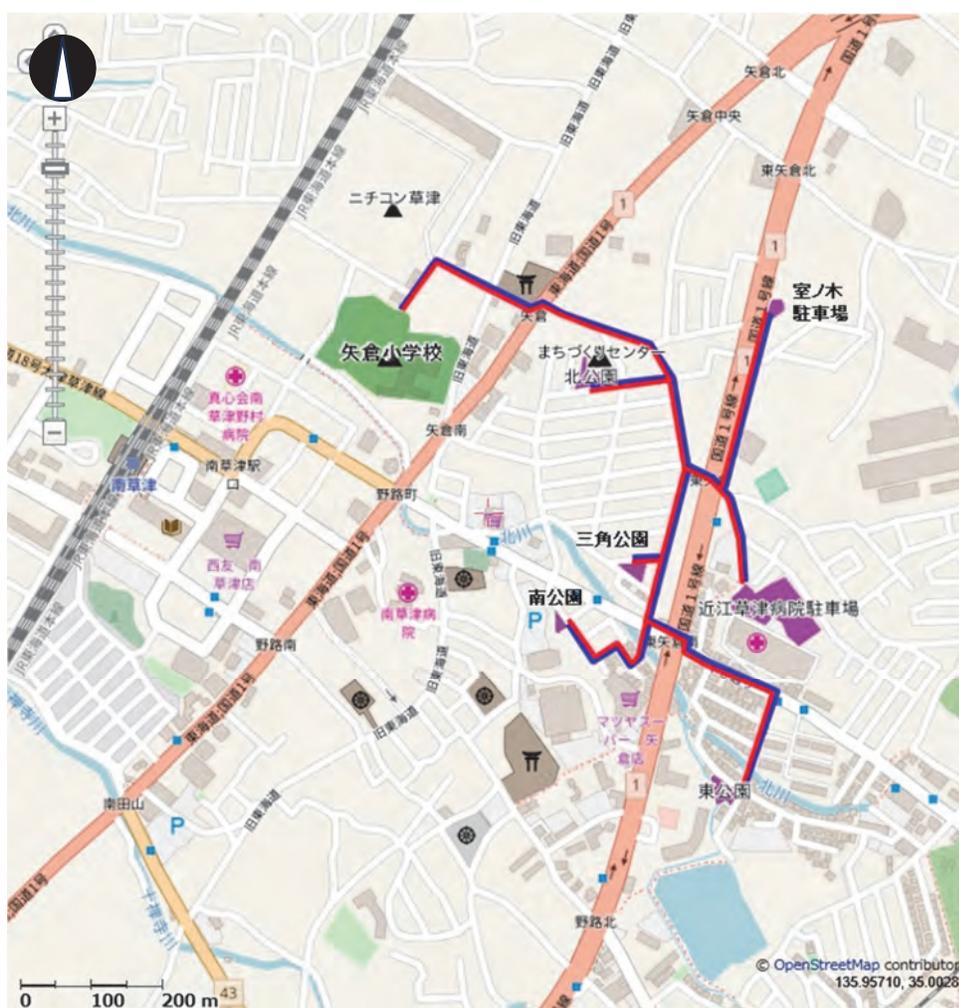
【町内の避難所】

指定していない

- 自治会館収容許容人数 69人
- 自治会館を広域避難所との中継とする

6箇所の一次集合場所に集合して避難者名簿を作成、安否確認

## 町内会の避難経路図



凡例

- 水害時避難ルート
- 震災時避難ルート
- 一次集合場所
- 町内の避難所
- 広域避難所

## No.08 大塚団地

### 町内会の特徴

夏祭りが一番の例ですが、進んで奉仕する人、一緒に楽しむ人等町内全体が一丸となって行事を完遂する連帯感がある。毎月第2日曜日は集会所の掃除、各公園の草引きを全組分担して実施し、会話のできる機会を作ったり美しいまちづくりに貢献している。サークルも多数あり、集会所の使用頻度も高く、喫茶も含めて気楽に話し合いのできる場作りも行っている。ただ、高齢化と共稼ぎ世帯の増加で二極化が急速に進みつつあります。

町内の見守りや下校見守りを行い「絆」づくりを進めている。

### 町内会での防災の取り組み

- 防災全体会議 年1回
- 防災机上訓練 年1回
- 新組長、組長補佐には防災に対する役割説明
- 防災役員会 1回／2ヶ月以上
- 総合防災訓練 1回／年
- 救命救護訓練 1回／年
- 消火班 消火器点検 2回／年  
稼動点検 1回／年
- 情報班 防災だより1回／2～3カ月
- 防災倉庫 在庫点検 1回／年
- 各種講演会&啓発活動
- 各種研修会
- 居住者調査 毎年5月頃実施

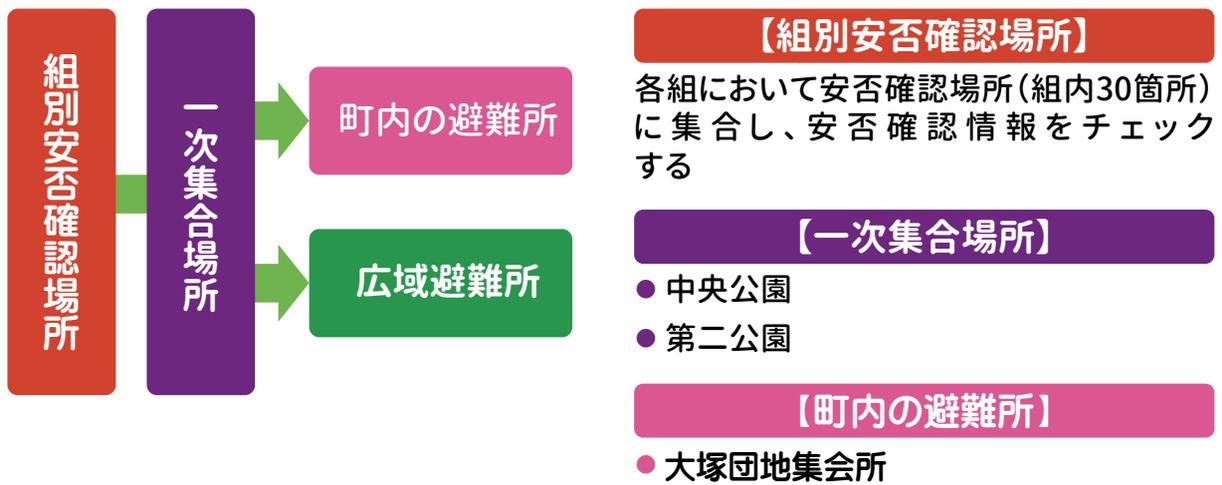
### 災害発生時の不安

災害の程度によりけりだが、

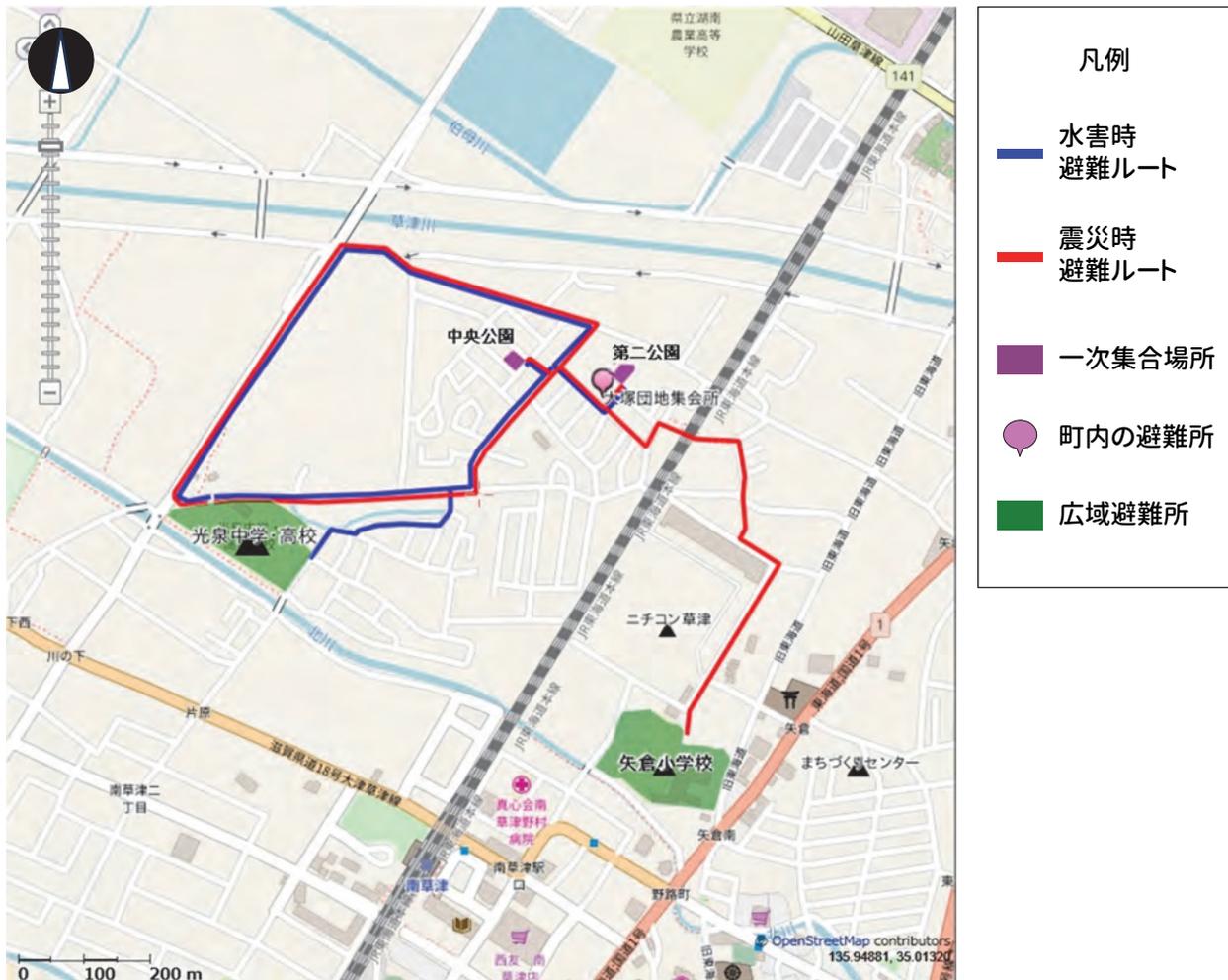
- 安否確認が確実にできるか
- 対策本部の機能、活動がどこまで可能か
- 避難通路の確保が可能か
- 避難所(集会所)の活用がどこまで可能か
- トイレ、生活用水等の確保はどうするか
- 新草津川氾濫時の対応の仕方はどうするか
- 高齢者が多く(35%)、又、共稼ぎ世帯の増加で平日昼間の救護、対応がうまくできるか

# の体制

## 避難の体制と避難場所



## 町内会の避難経路図



## No.09 矢倉団地

### 町内会の特徴

- 町内役員会議を月1回最低している
- 町内の行事は3カ月に1回している
- 町内住民の65歳が50%以上
- 年1回町内住民防災訓練
- 年1回町内人権学習会

### 町内会での防災の取り組み

- 年1回 町内住民防災訓練
- 年2回 玄関(各家)の防災ベルの点検してもらってます
- 年1回 室内(各部屋)の防災の点検してもらってます

### 災害発生時の不安

- 近くのJRTンネルが水で溢れそう
- 65歳以上が半分以上で心配

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

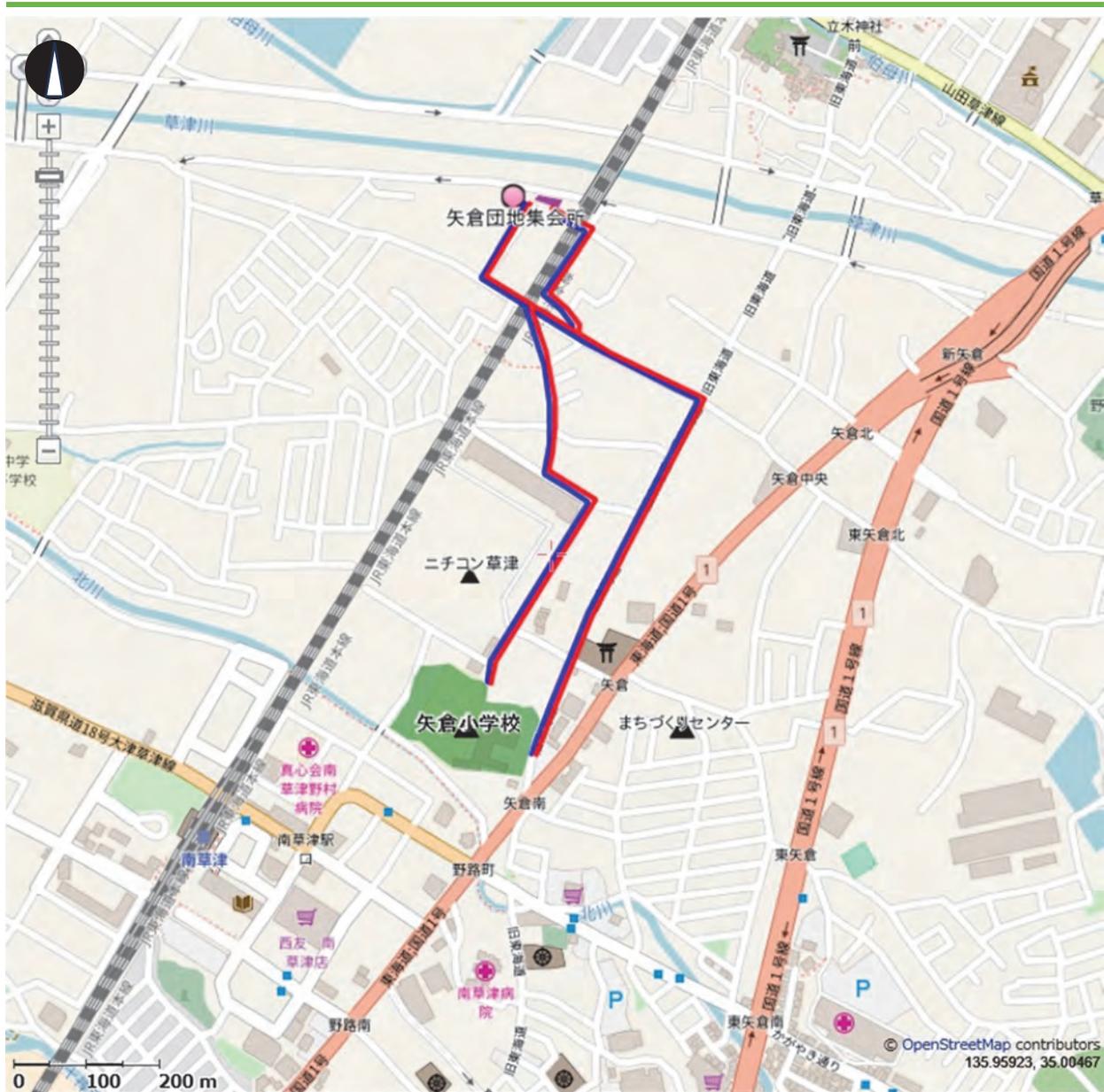
- 矢倉団地集会所の前

#### 【町内の避難所】

- 矢倉団地集会所

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.10 グランドール南草津

### 町内会の特徴

- 高齢者世帯が増えてきている
- 笑の会(敬老会)の活動が盛んである
- 住民同士のつながりが深くなってきている
- マンションの敷地に、お花がいっぱいである

### 町内会での防災の取り組み

- 月1回 自主防災の会議(役員)
- 避難訓練
- 講習会
- 消火設備点検(法令)
- 防災時の機器の購入

### 災害発生時の不安

- 一ツ池の増水(宅地開発による池への流入増加)
- バイパスをくぐるトンネルの冠水
- 馬池第二児童遊園回りの用水路の氾濫
- 住民世帯の家族構成が把握できていない

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

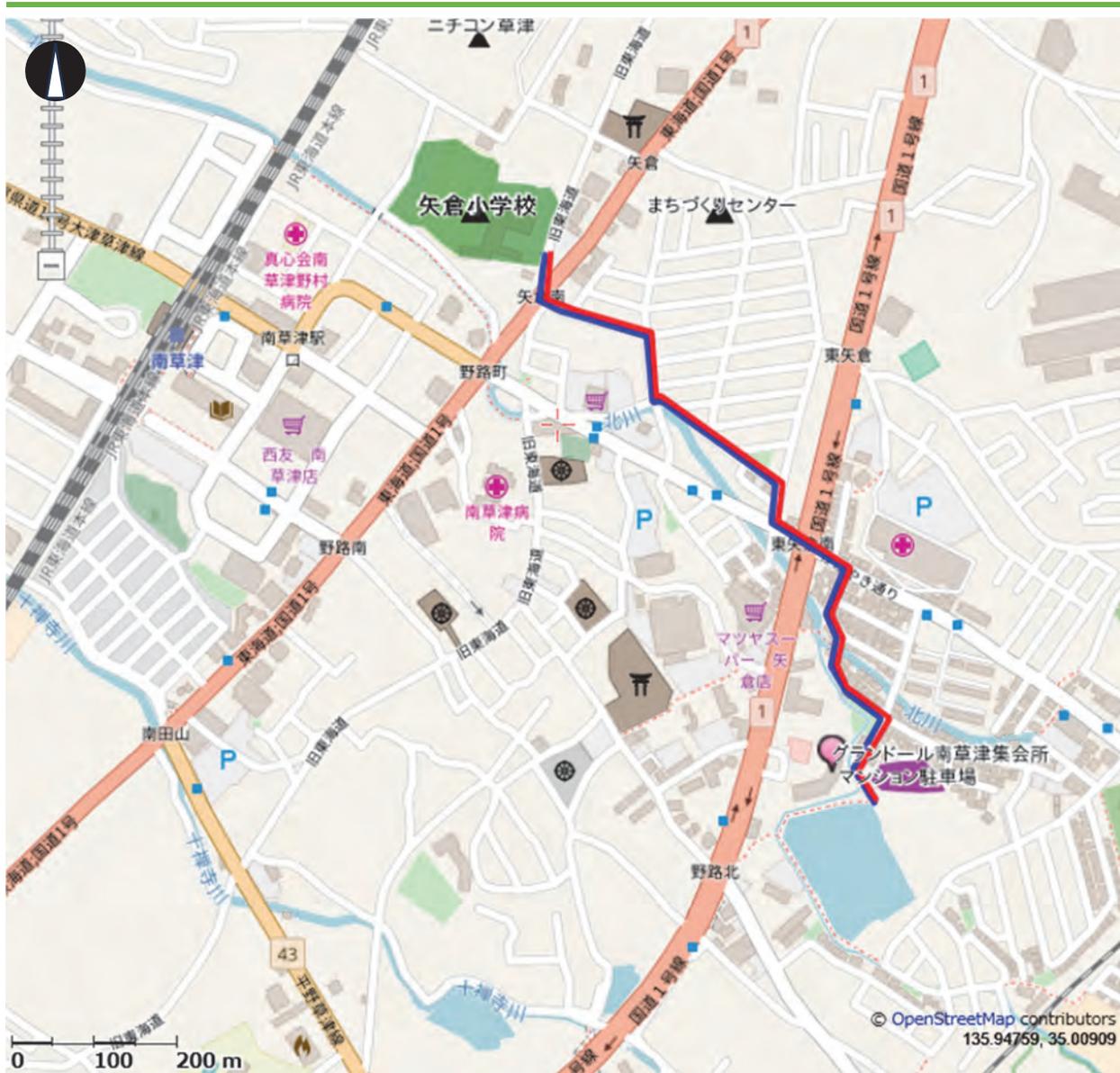
- マンションの駐車場

#### 【町内の避難所】

- グランドール南草津集会所

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.11 草津みらい町

### 町内会の特徴

少人数の町内会で(他の町内会と比べれば)、又、年代も比較的近く、まとまりは有る方ではないかと思えます。

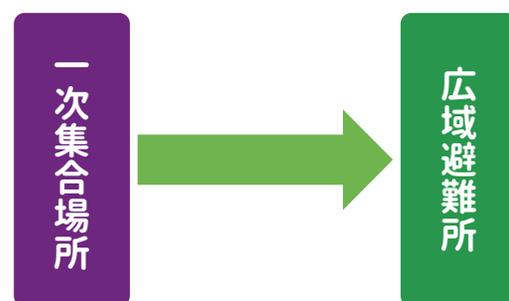
### 町内会での防災の取り組み

- 夏祭りで防災関係のイベントを行うこともあり
- 回覧でも防災記事を回す
- 町内清掃、夏祭り、運動会等のイベント時に防災庫の内容確認を行う

### 災害発生時の不安

- 町内の者が全員収容できる公共の建物がない

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

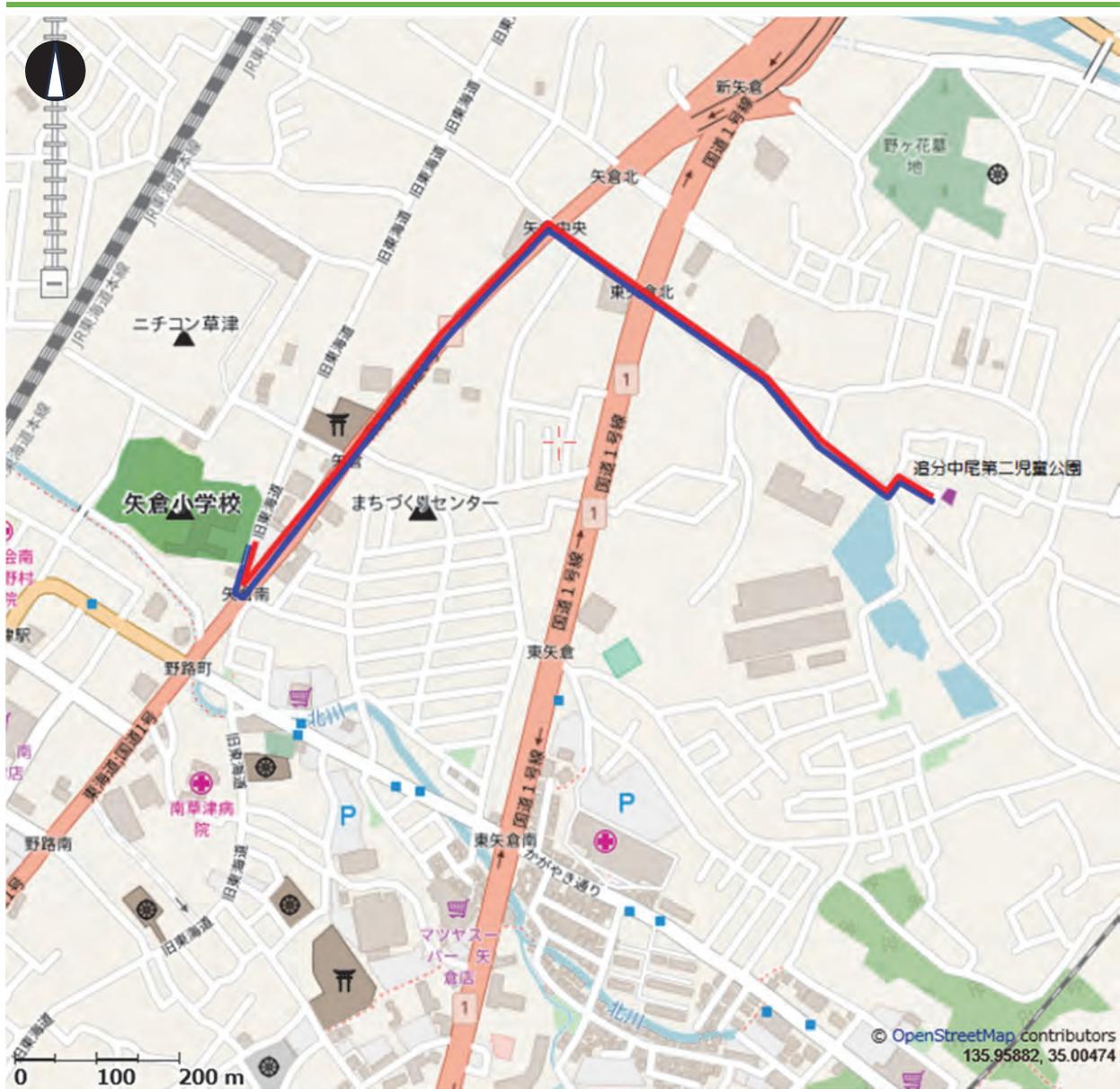
- 追分中尾第二児童公園

#### 【町内の避難所】

無し

# の体制

## 町内会の避難経路図



凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

## No.12 南草津ピースタウン

### 町内会の特徴

- 新興住宅、共働き世帯も多い
- 今現在は高齢世帯は少ない
- 町内行事は多くない。近所付き合いも盛んとは言えない

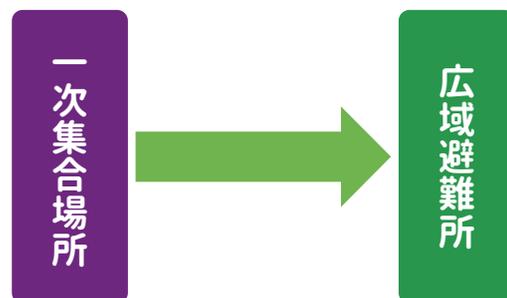
### 町内会での防災の取り組み

- 町内自主防災組織で消火BOX等の点検をしている
- 町内で水、食料の備蓄を行っている(ただし数日分)

### 災害発生時の不安

平日昼など町内に人が少ない時の災害発生時の安否確認(京都、大阪などに働きにでている方もいる)

### 避難の体制と避難場所



#### 【一次集合場所】

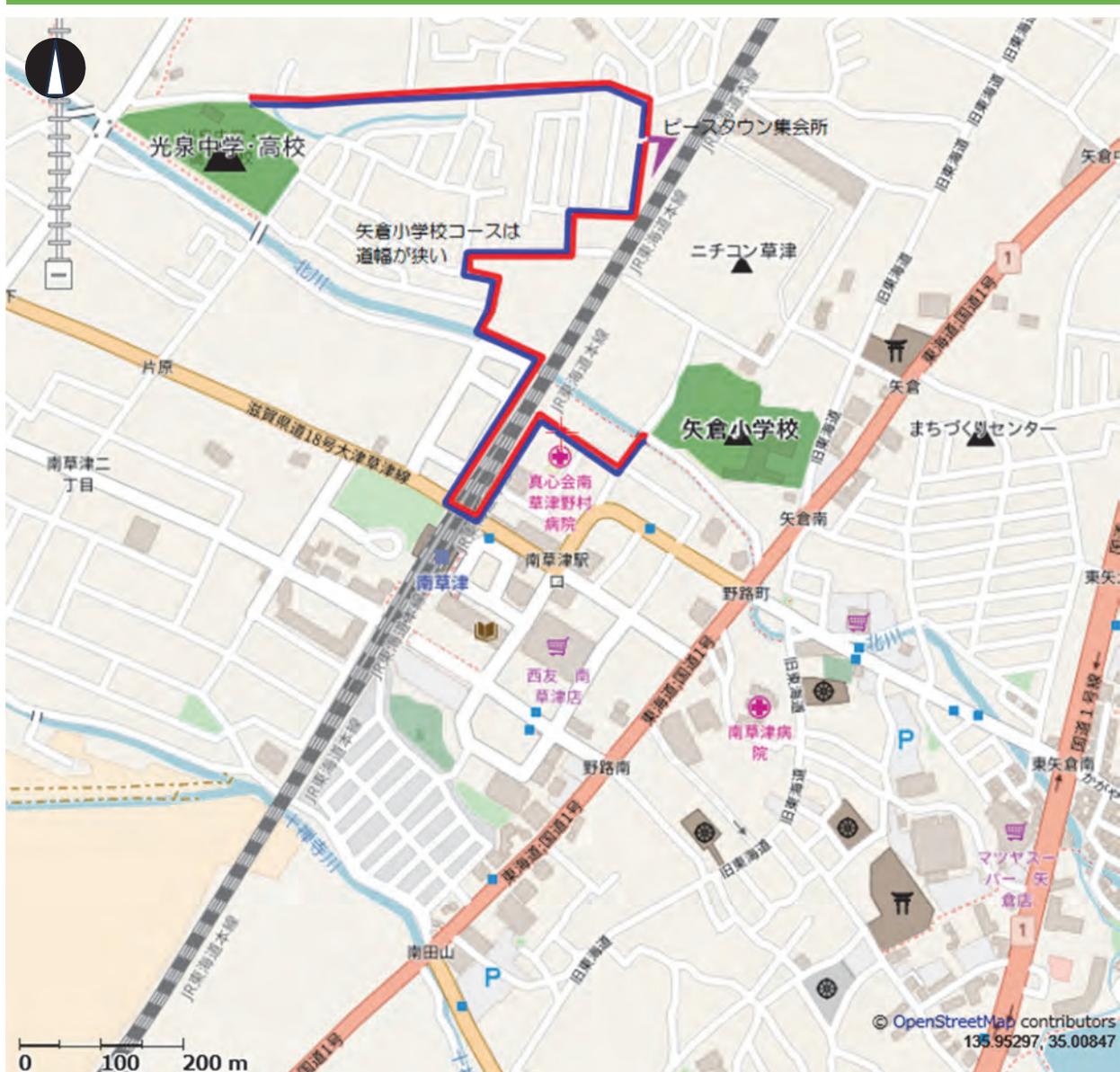
- 南草津ピースタウン集会所

#### 【町内の避難所】

- 指定していない

# の体制

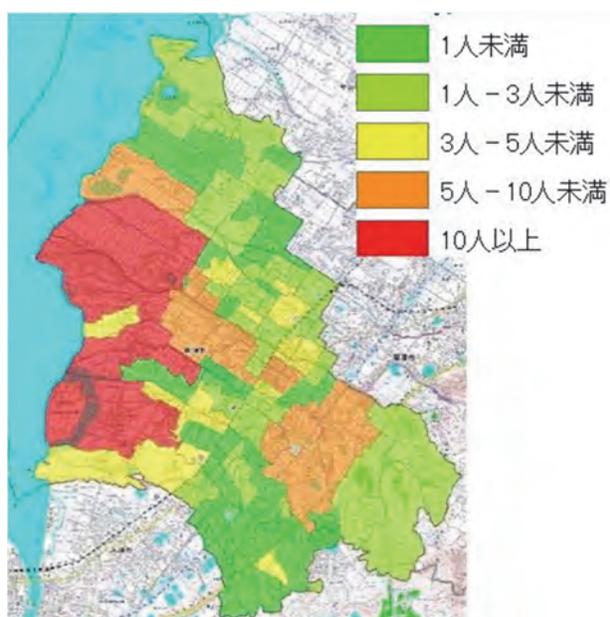
## 町内会の避難経路図



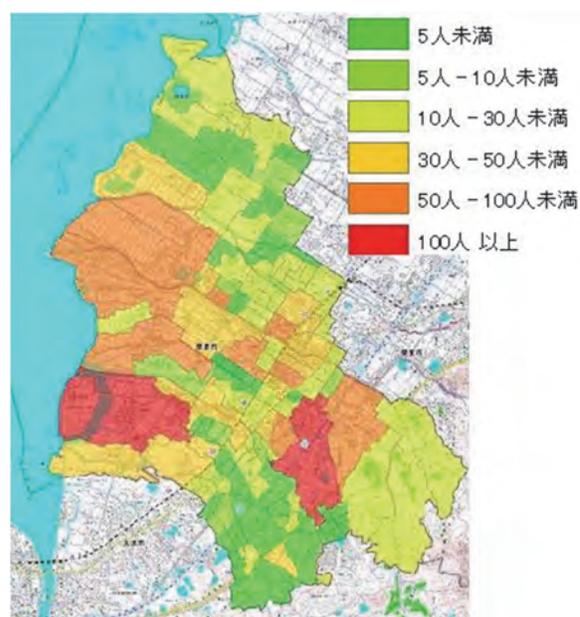
凡例	
 水害時避難ルート	 一次集合場所
 震災時避難ルート	 町内の避難所
	 広域避難所

付録では「草津市防災アセスメント調査」(平成27年(2015)の発生における学区の被害予測を示した図を載せています。

## 付録1 琵琶湖西岸断層帯地震における地区別の死者・重傷者予測

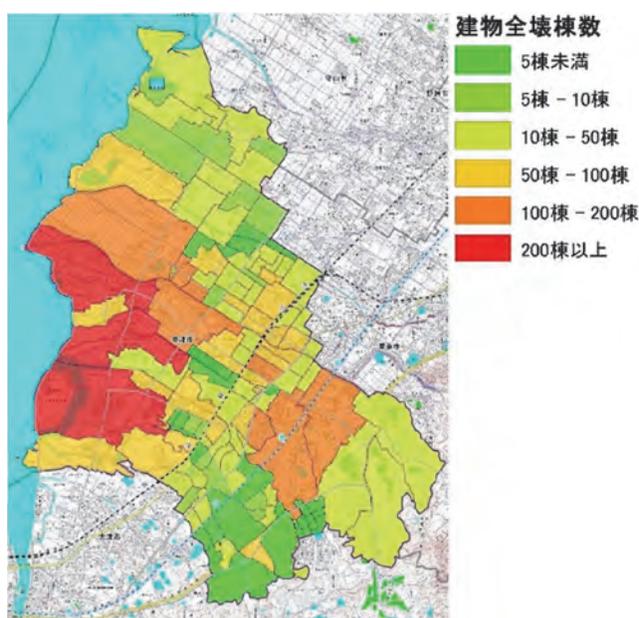


(地区別の死者発生予測)



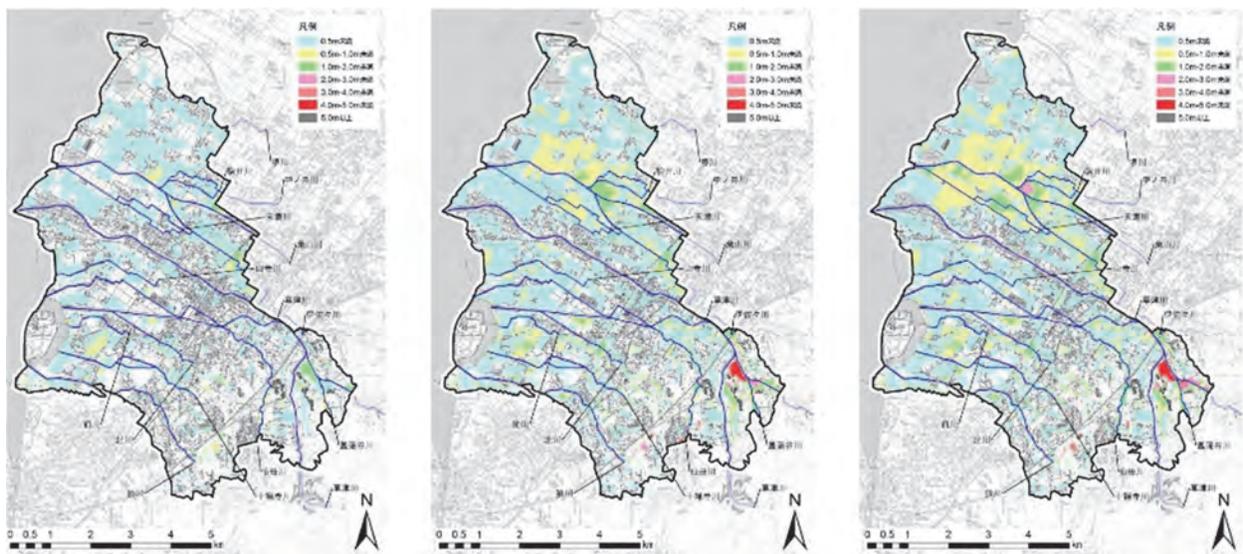
(地区別の重傷者発生予測)

## 付録2 琵琶湖西岸断層帯における地域別の建物全壊棟数予測



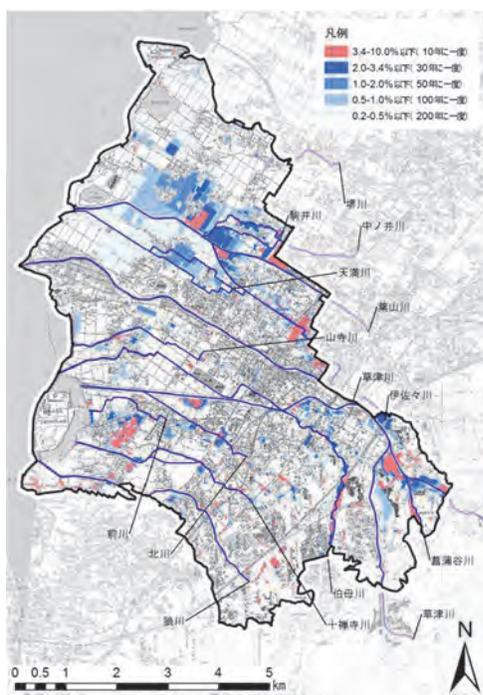
## 年)1月時点)から抜粋した琵琶湖西岸断層帯地震や風水害

### 付録3 風水害発生時の最大浸水深



(左図:最大浸水深10年発生確率、中図:100年発生確率、右図: 200年発生確率)

### 付録4 風水害発生時の床上浸水発生確率



# おわりに

地区防災計画策定に向けて29年度矢倉学区未来のまち協議会として、防災計画策定委員会を設置し、龍谷大学の石原先生を講師に迎え、地域の策定委員の皆さん、関西情報センターや市危機管理課の方とまちあるきをしながら、何度も議論を重ねました。

今回、地区防災計画の冊子が全戸に配布されます。住民の皆さんには目を通していただき、地震・風水害が発生したらまず何をしなければならないかを、一人ひとりが常に心がけて地域にお力添えをいただく事で安全安心なまちづくりに繋がります。学区としても、出来ることはどんどん進めて、様々な取組を重ねていくことが重要と考えており、他の地域を引っ張っていく気持ちで取組を続け、広げていきたいと思えます。これからもより地域の实情に合わせた災害対策を地域の皆さんと共に進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

矢倉学区災害対策本部長 中谷緑郎

「地区防災計画策定」という限りなく深くて大きなテーマに向かい、まずは、「皆で考えてみよう、出来ることから始めよう」と模索しながら一つの方向性を求めてすすめて参りました。

「我々の滋賀・草津は災害もないよいところ」と希望するも反面、いつ大災害が起こるかなど誰も予測など出来ません。そうした中、「もしも・・・」を想定して、草津市や矢倉学区の災害対策本部、そして何よりも各町内会(自治会)とが連携し地域皆様の防災活動に対するご理解とご協力、そして「いざ、という時」の近隣住民の助け合い、絆づくりを大切にして今後に繋げて行きたいと思えます。

矢倉学区地区防災計画策定委員長 大久保一郎

# 奥付

## 矢倉防災計画策定委員会委員

(2018年1月30日現在)

委員長	大久保一郎	
副委員長	駒井 良次	
委員	青木一次郎	多賀野喜久夫
	千代 誠一	村川 嘉雄
	梅村 進	河野 啓子
	梅岡 勝	中谷 緑郎
	黒川 正之	柴田 弘三
	玉木 謙壽	山本恵津子
事務局	三小田幸雄	大城 和美

龍谷大学政策学部 講師

石原 凌河

一般財団法人関西情報センター

西田 佳弘

小嶋 正士

坊農 豊彦



矢倉学区  
未来のまち協議会